



平成 20 年 10 月 6 日

各 位

会社名 株式会社メディビックグループ
代表者名 代表取締役社長 橋本 康弘
(コード番号2369:東証マザーズ)
問合せ先 執行役員管理本部長 門井 豊
(Tel: 03-6744-2882)

**メディビック、凍結保存が可能な真空採血管における特許権が正式承認
～治験・臨床研究分野などへの実用化に期待～**

このたび、当社の子会社である株式会社メディビックにて設計・試作*1を進めてきました検体*2の凍結保存に用いる真空採血管について、国内での特許権が正式に承認を受けましたのでお知らせいたします。この特許権承認・取得により、「検体保管用真空採血管」が当社グループの知的財産権の一つとして保有できることとなり、自社での利用だけでなく、他社への実施許諾（ライセンス）も容易となりました。当社グループとしましては、早期の実用化に向けて、自社での生産及び外部パートナーとの共同生産と、あらゆる可能性から準備・検討を進めてまいります。

記

株式会社メディビックでは、ファーマコゲノミクス試験（PGx 試験）*3を伴う臨床試験を強力に推進するため、これまで血液の採血および一時保管として利用され凍結保存用としては作られていなかった真空採血管を、当社発明の付属品で密封可能とすることで凍結保存用として使用できる、真空採血管の設計・試作を進め、実用化の目処がつけました。

（平成 20 年 3 月 18 日当社プレスリリースで発表）

この「検体保管用真空採血管」の特長としては、次の通りです。

1. 簡単操作

付属部品を装着することによりそのまま凍結が可能になり、検体処理を大幅に簡素化できる。

2. 優れた耐低温性

検体を採取した真空採血管のままで超低温（-80℃）凍結保存が可能である。

3. さまざまな用途での使用が可能

医薬品開発における PGx 試験を伴う臨床試験での利用のほか、検体の凍結に関わる幅広い分野での利用が可能。

従来、凍結が必要な場合、一般的な採血管で採取後凍結に耐えうる保存チューブに移し換え、凍結輸送・保管していましたが、「検体保管用真空採血管」を使用することで、移し換えの作業が不要となります。これより、従来の採血管での検体の採取、保管に比べ、検体管理の手間を大幅に軽減することが可能となります。

メディビックは、このような優れた特長をもつ「検体保管用真空採血管」を、自社のみで独占的に利用するだけでなく、治験や研究を行う多くの製薬企業や研究機構でも利用いただくことで、近年増加の傾向にある PGx 試験を初めとした多くの検体処理の案件に対応するという課題が解決されることを期待し、実用化に向けて準備を進めてきました。

また同時に、基本特許の出願についても進めてきましたが、今回審査請求・特許査定申請の通過により、正式に国内での特許権を取得いたしました。これにより、「検体保管用真空採血管」を他社へ実施許諾（ライセンス）提供することも容易となり、今後、当社グループとして新たな事業展開も見据え、早期の実用化に向けて準備・検討を進めてまいります。正式な実用化につきましては、今後詳細が確定次第お知らせいたします。

なお、今期の業績に与える影響に関しましては、現時点では軽微と考えております。

*1 設計・試作の目的

メディビックは、個人の体質に合った医薬品開発のためのファーマコゲノミクス試験（PGx 試験）を、総合的・段階別に支援するサービスを展開しています。PGx 試験は、個人の体質に合わせた医薬品を開発する上で必要な試験です。PGx 試験を実施する製薬企業は、医薬品開発のための治験の際に、遺伝子を調べるための検体（血液サンプル）を被験者から採取し、必要に応じて、医薬品の開発期間に相当する 15 年～20 年もの長期に亘り、凍結して保管する必要があります。これまでは採取して保管するまで多大な費用と時間がかかり、より簡便な製品が望まれていました。

*2 検体

ここでの検体は主に血液検体を想定しています。

＊３ ファーマコゲノミクス試験（PGx 試験）

医薬品開発を行う上で、臨床試験で遺伝子解析を伴う場合、PGx 試験が必要となります。

ファーマコゲノミクス（Pharmacogenomics：PGx）は、Pharmacology（薬理学）と Genomics（ゲノム学）を組み合わせた造語で「ゲノム薬理学」とも訳されています。広義では、網羅的・体系的なヒトゲノム情報を用いることで副作用や薬効を予測し、患者にとって最も副作用が低く有効性の高い治療を提供することが可能な科学的領域（研究、概念、手法、戦略など含む）を指します。2000 年にヒトゲノムが解読されてから著しい速さで発展したゲノム科学を、医薬品開発や医療現場で活用する「テーラーメイド医療」の基礎となる新しい研究領域です。

PGx の活用は、創薬研究や臨床開発の効率化を促し、より安全な薬剤を迅速に創出することを可能とし、これからの医薬品開発や医療で重要な役割を果たすといわれています。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社メディックグループ

管理本部 I R／広報グループ

Tel: 03-6744-2882

E-mail : ir_info@medibic.com

株式会社メディックグループ

当社グループは、個人の体質に合わせて副作用の少なく効果の高い薬を処方できるテーラーメイド創薬の実現を目指す企業です。具体的には、医薬品開発や研究などを行う製薬企業や研究機関などに対し、個別化医療やテーラーメイド創薬を推進するサービスや製品を提供しています。

薬の効き目の個人差を示す体質は、遺伝子によって決められています。個人の遺伝子タイプが分かれば、体質に合ったより効果の高い薬を選択し処方することができます。また、投薬前に効果を確認することで、副作用も最小限に留めることができます。そのために、製薬企業では遺伝子と薬の関係を調べて医薬品開発をするようになってきています。そのために必要となるのが、PGx 試験です。導入企業は年々増加しています。

当社グループは、PGx 試験を総合的・戦略的に支援できる体制を整えています。当社グループが独自に築いた、バイオ最先端の技術・情報網、そして医療機関・製薬企業などとの幅広い人的ネットワークの活用により、PGx に対するニーズを的確に掴み、顧客の要望に適した満足度の高いサービスを提供しています。

当社グループは、PGx 試験を総合的・戦略的に支援できるユニークな存在として実績を積み重ねることにより、圧倒的に優位なビジネスポジションを築いています。

当社グループに対する詳細な情報は、<http://www.medibic.com>をご覧ください。

以 上